

## **ブラジルにおける具体的な取り組み**

丸紅グループは、2011年より、ブラジル南部 Sao Francisco do Sul 港に穀物・油糧種子の輸出港湾設備運営会社を保有し、南米産穀物・油糧種子の調達、輸出体制の整備を進めています。

ブラジルにおける大豆生産量および輸出量は全世界において最も多く、今後も引き続き食料の安定供給に欠かせません。その一方、ブラジルは広大なアマゾン雨林を有する地域であることから、丸紅グループは、ブラジルが環境・生物多様性の保全において特別な配慮が必要な地域であると認識しており、ブラジル国内において以下取り組みを行っています。

## **ブラジルにおいて穀物・油糧種子の調達および販売を行う Marubeni Graos Brasil S.A.における具体的な取り組み**

1. アマゾンの森林破壊を防ぐために導入された環境保護政策である大豆モトリアム<sup>(※)</sup>の規程に準じた農家からの大豆調達を推進しています。
2. 上記 1.を担保するため、生産者（農家・仲介業者等）からの買付契約書面において大豆モトリアムの規程に準じた調達であることを明記しています。
3. 生産者（農家・仲介業者等）への定期訪問調査およびヒアリング等を定期的に実施の上、生産現場～集荷～当社輸出港湾設備までの大豆国内輸送におけるサプライチェーン実態の把握に努めています。

(※)大豆モトリアム：アマゾンバイオームで 2008 年 7 月以降に森林伐採された土地で生産された大豆の取引・貿易を禁止するイニシアチブ。2006 年から導入され、ブラジル植物油産業協会協会（ABIOVE）、ブラジル穀物輸出協会（ANEC）、その多国籍企業など主要な大豆取引業者が自主的に参加している。衛星画像を使用した森林伐採の監視等モニタリングを行い、NGO や政府機関も協力。森林保護の成功例として広く認識されている。

以上